

<視点> 陛下、政府検討を注視 退位

朝日新聞 2016年12月23日

(文中の太字は引用者による)

8月のお気持ち表明後、天皇陛下が初めて考えを示す場として注目を集めた今回の会見。政府の有識者会議の検討が進み、現天皇のみの退位を認める特例法整備に流れが向くなか、政府関係者らには「陛下が何か考えを示すのでは」と身構える動きもあった。だが陛下は、多くの人々が耳を傾けてくれたことへの感謝を述べるにとどめた。関係者によると、陛下は政府の検討状況を注視している。退位を認めないなど大きく思いと違う方向で議論が進めば、踏み込んだ発言をする可能性はあったかもしれないが、元宮内庁幹部は「孤独とも言える胸中が広く伝わり、安堵あんどされた面もあるのでは」と話す。

陛下は、8月のお気持ち表明は「内閣とも相談」したと述べた。退位意向をにじませた内容が憲法違反ではとの意見があるなか、憲法に抵触しないよう入念に準備したことがうかがえる。

だが、決して**陛下の懸念が消えたわけではない**。現在、皇室は19人で構成されるが、うち女性皇族が14人で、多くは結婚すれば皇籍を離れる。天皇陛下の孫の世代の男性皇族は秋篠宮家の悠仁さましかいない。

政府は皇室典範の改正には踏み込まない構えだが、問題の先送りをするべきではない。憲法は象徴天皇の地位は国民の総意に基づくと定める。政府も国民も、**陛下が投げかけた象徴天皇のあり方について、真正面から考える必要がある**。(島康彦)